

第12回松戸駅周辺まちづくり委員会議事録（概要版）

日 時 平成31年3月28日（木）10時00分～11時40分

場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン

出席委員 委員13名（別紙委員名簿のとおり）

欠席委員 太下委員、轟委員

事務局 街づくり部審議監、街づくり課長、松戸駅周辺街づくり担当室長
他11名

傍聴者 11名

議 題

- 1.（仮称）矢切の渡し公園計画の策定について
2. 新拠点ゾーン整備基本計画について
3. その他

配付資料

1. 次第
2. 説明資料

〔仮称〕矢切の渡し公園計画の策定について

【委員長説明】

- （仮称）矢切の渡し公園計画の策定についての答申について説明。
 - ・ 矢切耕地全体のあるべき将来像については、当該地域の農業従事者等との連携を図るとともに、都市計画に基づき、具体的な保全整備計画を策定されたい。
 - ・ 矢切耕地全体にかかわる上位計画との整合を図るとともに、関連施策とも連携し、「公園としての役割」を整理したうえで、その整備計画を策定されたい。
 - ・ 上位計画が策定されるまでの期間、地域振興等、当該計画地の活用がすみやかに求められる事案については、上位計画との整合を常に留意しつつ、慎重な検討のもとに行われたい。
 - ・ 附帯意見として、矢切耕地が市民の貴重な共有財産として維持・継承され、その価値が矢切地域から広く波及していくよう、市民と各行政部門が一丸となり、様々な施策に取り組みられることを強く希望する。

【審議内容（各委員からの意見）】

- ・ 「ザ!鉄腕!DASH!!」というテレビ番組で、TOKIOの二人が、矢切の渡しに乗って、葛飾側から着いて堤防の上に立ったときに、「すげー」と口にしたのが印象的だった。今の若い人たちの感覚は緑を見たときにすごいと思うのであり、昔とは感覚が変わっていると痛感した。そういう感覚も大事にしなければならない。
 - ・ 「開発で利用」するのではなく、緑や農地などを子どもたちに「楽しむ利用」をしてもらい伝えていくことや、持続可能な利用で自然と共生することを配慮願いたい。
 - ・ 矢切耕地全体にかかわる上位計画・関連施策と連携し、将来像を検討した後、公園について詳細な検討が必要であり、広い緑地には全体計画が必要である。
- 「〔仮称〕矢切の渡し公園計画の策定」について答申。

新拠点ゾーン整備基本計画について

【事務局説明】

- 新拠点ゾーン整備基本計画の素案について、資料に基づき説明。

【審議内容（各委員からの意見）】

- ・ 一つは、駅前周辺全体、さらには松戸市全体のまちづくりをどうするのかを受けて新拠点ゾーンを考えるという部分を書き込んで充実させていただきたい。もう一つは、ソフトをどのような計画として作っていくのか、表裏一体で連動させて考えていくことをお願いしたい。

- ・ この 5 年ぐらいの間に大きく社会が変化し、それに対応して、この新拠点ゾーンあるいは松戸のあり方というものも変わってきた。松戸市全体の未来を見据えながらこの場所をつくっていかうという包括的な計画に逆に戻っていったので、もう一度松戸市全体の将来のあり方、それから松戸市民との連携をしっかりと考えていく必要がある。
- 【事務局】 ソフト計画と一緒に考えることと、市民の方との連携は非常に大事な分野だと考えている。委員各位にも、ソフト・ハード施策両方を同時に検討いただきながら賑わいのある松戸駅全体をつくっていききたい。その一番の要となるところが新拠点であると考えている。
- ・ 低層階の建物でつないでいくという考え方には、賛成である。バリアフリー化や、高齢者にだけの生涯学習ではなく、子どもから一生にわたって生きがいのある松戸を目指して、生涯学習施設、図書館だけではなく、保育園、あるいは高齢の方々の交流スペース、高齢の方々と子どもたちが交流しながらボランティアができる講座も位置づけていきたい。
- 【事務局】 安全・安心、生涯学習は非常に大事な点だと考えており、緊急整備地域の中でも 6 つの柱を立てているので、千葉大学、聖徳大学など、学校とも連携させていただき、生涯学習というところでもお力をお借りできればと考えている。
- ・ 都市再生緊急整備地域指定は秋ぐらいになるとして、そのときを見据えながら、基本計画の素案は変更ということもあり得るのか。
- 【事務局】 都市再生緊急整備地域準備協議会の中で、現在、エリアや整備方針といったものを検討しているが、これらはまだ正式なものとはなっていない。その考え方をこの基本計画の中に踏襲した形で検討し、柔軟な変更も出てくるかと思う。
- ・ 災害に対するレジリエンスの確保について、新拠点エリアが防災拠点にもなるということは、駅からとても近いところに拠点ができ、いいことであると考えている。国道 6 号は緊急輸送道路であり、アクセスを確保していくというのが防災拠点上重要なため、市道 2-68 号に加えて、もう 1 ルートぐらい考えてもいいのではないか。
- 【事務局】 現在、市道 2-68 号は一方通行になっているが、交互通行にして下からのアクセスを図るだけでなく、国道 6 号からのアクセスも重要になるので、柏方面からの右折レーンの整備を検討していき、国道 6 号からのアクセスも強化してまいりたい。
- ・ マーケティング、流通では、商業施設ありきではないという時代に入っており、商業施設に頼ればそこに賑わいがあるという考え方では、空洞化や撤退の問題が生じるため、参考としての記述だとは思いますが検討いただきたい。モビリティについては、「ヒト」でイメージしがちだが、結局「モノ」が動くため、「モノ」が届くような設備にしなければならない。これを契機に新拠点ゾーンから、住むところへ「モノ」のアクセスの利便性が高くなることにより、在宅ワーク等、ワークライフバランスを実現できる都市になると思う。
- 人口が減り、高齢化が進む中、若い層の消費行動を見ていると、商業施設や消費行動

に頼るのは、今後無理だと思う。一方で、事業費をどうやって捻出するのかという問題があるが、可能な限り事業費を下げるという方向で考えることが一つであり、もう一つは、消費に依存しない形での事業費の捻出方法を考えるということである。物流、「モノ」の動きはそのとおりであり、細かく小さく、しかし同時に多発的にあちこちに「モノ」が動くという動き方にこれから変わってくる。これからは、U b e r みたいなものをどうやってうまく日本に導入していくかなどの問題を受け止めることが重要である。

- ・ 他の計画と連携して松戸駅周辺まちづくり基本構想を短期・中期・長期的に進行してほしい。西口から西口公園とダイエーのところの旧道までは、歩道、街路灯が整備されたが、旧商工会議所から江戸川までの間、シンボル軸となっているところが非常に段差があるなど危険であり、新拠点ゾーンの整備の完了までに整備が進行していない部分について、ぜひ実行してほしい

→ **【事務局】** 担当の建設部に伝えさせていただく。工程については、今後、関係機関との協議や調整などにおいて若干の変更はあると考える。

- ・ ぜひ格好良くておしゃれな場にしてほしい。若い世代は、新品ではなくビンテージ、ブランドではなくノーブランド、所有ではなくシェアというように昔の世代と真逆の価値観を持っている。これからの世代がエリアの完成するころのメインのターゲット層になっていると考えると、これからの世代に受けるようなそういう空間であるようにしたいと思う。

→ 若い世代のおしゃれにもう一つ加えるとすれば、ローカリティ、地域性だと思う。松戸の味や松戸産の何かが、ここに行けばある、あるいは味わえるということがとても大事であると感じている。また、他の委員から意見があったが、この拠点が軸となり、「入る」と「出る」の動きがある。松戸駅からシンボル軸を通して拠点に来て、西口・東口の駅周辺の様々な場所へ、拠点から行っていただくことも考え、計画に加えていただきたい。

→ **【事務局】** 新拠点ゾーンは本市のランドマークとなる多機能拠点という位置づけをしているが、そこから周辺の戸定が丘歴史公園や松戸駅西口、そういったところに回遊性が生まれ、良さが外ににじみ出るような形を考えていきたい。また、サードプレイスとして居心地のいい空間を随所に作っていくことも考えながら、この計画を進めていきたい。

- ・ ローカリティの尊重は大事である。東京の国分寺市が「国ベジ」というプロジェクトを行い、農作物を国分寺市内で消費してもらうのをベースとし、ブランディングにつなげている。矢切耕地のように、松戸もポテンシャルがあるわけであり、そういったところともつなげてこのエリアのプランニングを考えていくことが大事である。

→ ブランドは結局イメージであり、その人がどういうイメージを持っているのかというのが結局重なったもので、結局矢切ブランドというものを、松戸市民が付加価値が高いものと思っ

→ 松戸育ちの人間にとっては、ねぎや梨は目新しくはないが、新しくいらっしゃった方々にとっては、新鮮なのだと思う。そういったものを、期間限定でも、あるいは常設店でも、常に駅の周辺で買ったり食べたりできる環境があったらよいと思う。新拠点ゾーンがそういった店を活性化し、紹介する場所になったら楽しいのではないか。

議事録署名委員 横井 のり枝 委員
恩田 忠治 委員